

「熊本の学び」の推進を支え、学力向上を目指す  
 「熊本の学び」アクションプロジェクト  
 ～本県の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障するために～

はじめに

本ハンドブックは、本県の子供たちの基礎学力を保障するために、令和3年度から5年度までの3年間「熊本の学び」の推進を支え、学力向上を目指す取組をまとめたものです。

本県では、令和2年度から「熊本の学び」を推進し、すべての子供たちが能動的に学び、確かな学力を身に付けることを目指しています。しかし、既習内容の定着度や家庭環境等、子供たち一人一人の状況は様々です。そこで、「熊本の学び」アクションプロジェクトの取組は、特に一人一人の学習内容の定着や授業改善に焦点を当て、「誰一人取り残さない学びの保障」と「教員一人一人の授業力向上」の二つを柱としています。

熊本の未来を創る子供たちを誰一人取り残すことなく、基礎学力を保障し、それぞれの夢と幸せを実現できるように、県全体が一体となって取り組んでいきます。



- 1 本県の学力の現状と課題 . . . . P 1
- 2 本県の学力向上に向けた方向性 . . . . P 4
- 3 現状の改善に向けた方策 . . . . P 4
- 4 「熊本の学び」アクションプロジェクト

**【柱1】 誰一人取り残さない学びの保障**

の具体的取組に向けて . . . . P 6

- 5 「熊本の学び」アクションプロジェクト

**【柱2】 教員一人一人の授業力向上**

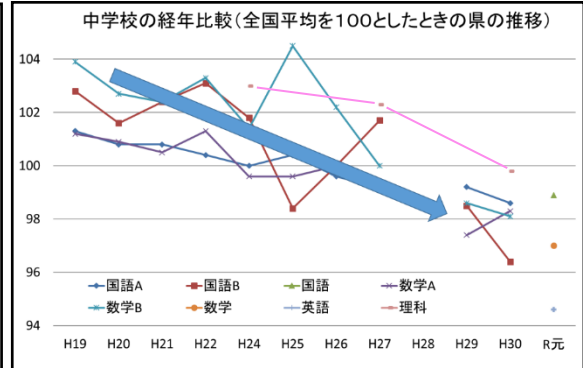
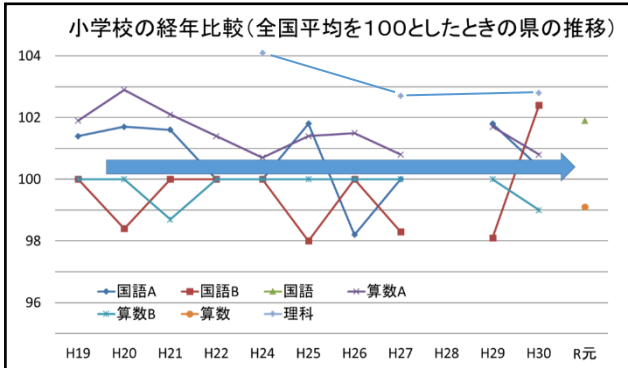
の具体的取組に向けて . . . . P13



# 1 本県の学力の現状と課題

## (1) 県全体の経年変化の状況

※全国学力・学習状況調査（以下、全学調）結果（小6、中3）より



- ・小学校においては、ほぼ横ばいの状況が続いており、全国平均程度で推移している。
- ・中学校においては、下降傾向が続いており、現在は全ての教科で全国平均以下となっている。

## (2) 同一集団の変化の状況 ※令和元年度（小6）

【授業改善、学習習慣に関する状況】

質問項目	全学調4月実施			県学調12月実施		
	県	全国	差	県	変化率	
主 的 的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び	項目①	73.0	74.1	-1.1	68.9	-4.1
	項目②	81.0	82.8	-1.8	82.1	+1.1
	項目③	64.4	65.7	-1.3	73.4	+9.0
	項目④	72.4	74.0	-1.6	-	-
	項目⑤	72.9	73.4	-0.5	-	-
	項目⑥	76.5	77.7	-1.2	73.8	-2.7
	項目⑦	59.0	62.5	-3.5	59.2	+0.2
学 習 習 慣 等	項目⑧	68.3	71.5	-3.2	59.5	-8.8
	項目⑨	62.3	66.1	-3.8	73.3	+11.0
	項目⑩	74.1	75.0	-0.9	-	-

・令和元年4月に実施した全学調では、授業改善に関する7項目及び学習習慣に関する項目の全てで、全国平均値を下回っている状況であった。中学校も同様。

・7か月後の令和元年12月に実施した熊本県学力・学習状況調査（以下、県学調）では（同一集団）、授業改善及び学習習慣に関する7項目中4項目が改善傾向で、3項目が低下傾向にあった。

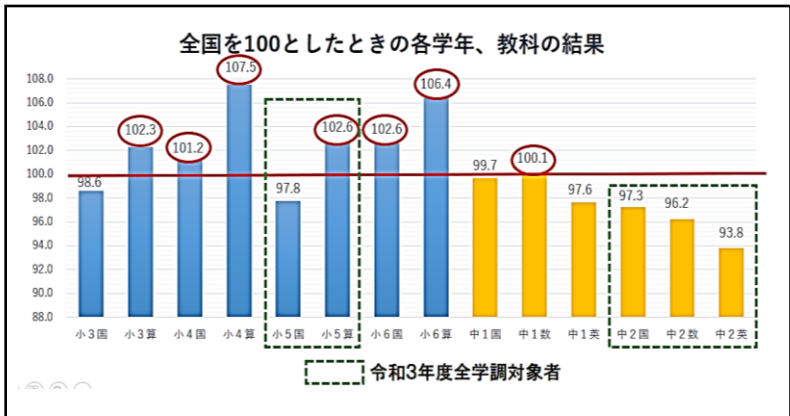
※項目①～③、⑥～⑨の7項目を比較

<参考>質問項目の内容

※アンダーラインは、低下傾向がみられた項目

- 項目① 学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
- 項目② 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか
- 項目③ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか
- 項目④ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか
- 項目⑤ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか
- 項目⑥ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- 項目⑦ 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- 項目⑧ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
- 項目⑨ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（1時間以上）
- 項目⑩ 読書は好きですか

(3) 各学年の状況 ※令和2年度県学調結果（小3～小6、中1～2）より  
**【小3～中2の各教科の状況】**

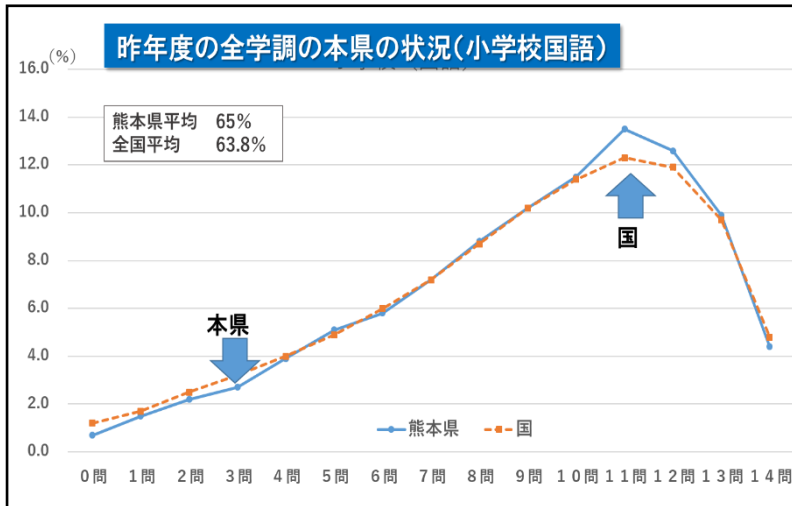


・実施学年の小3～中2において、全国値を上回ったのは、14教科中7教科であった。

※全国値とは、同様の調査を受けた全国の自治体等の集団が、毎年同じ傾向を示すことを利用して、推定したものです。

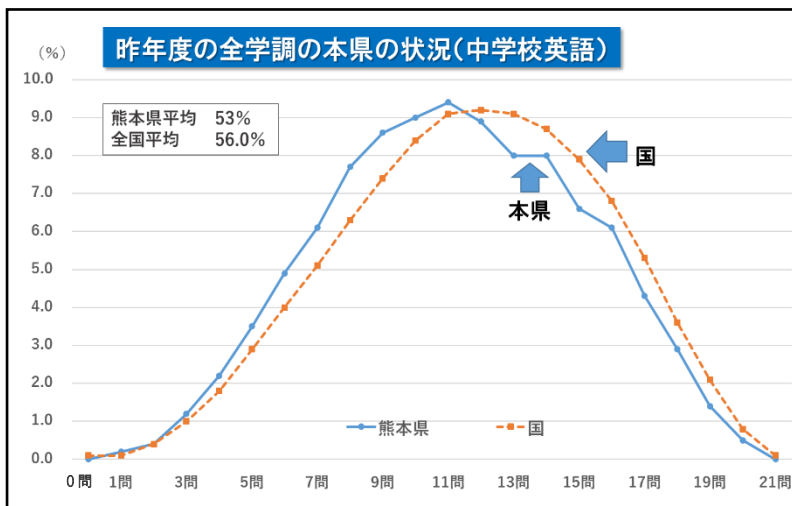
(4) 正答率の分布の状況 ※平成31年度全学調結果より

**小学校**  
**【小6国語】**



・全国とほぼ同じ分布であるが、上位層が全国より多い状況にある。

**中学校**  
**【中3英語】**



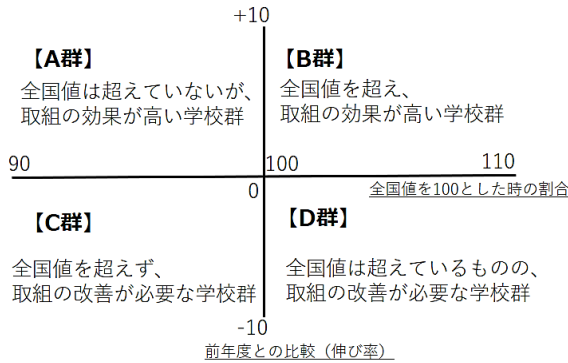
・下位～中位層が全国より多く、中位～上位層が全国より少ない状況にある。

※上記以外の教科について、小学校では、算数が全国とほぼ同じ分布である。中学校では、国語、数学ともに英語と同様の分布であり、下位～中位層が多い。

(5) 継続した調査による学力の伸びの状況

①各学校の学力の伸びの状況の把握

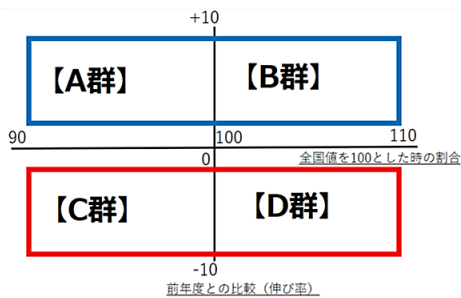
県学力・学習状況調査結果の前年度との比較（経年変化）に基づいて、各学校をA群～D群の4つのグループに分類し、各学校の学力の伸びの状況を把握する。



**【表の見方】**  
 ※横軸は、目標値又は全国値を100とした時の割合、縦軸は、令和元年度と比較した伸び率（目標値又は全国値を100とした時の割合の差）を算出。  
 ※R元年度小3、4、5及び中1とR2年度小4、5、6及び中2の同一集団による変化を比較。

②学力が伸びている学校の特徴的な取組

全国値に対する割合が昨年度より伸びているA、B群と、伸びていなかったC、D群の取組を学校教師質問紙調査の結果から比較し、差がみられた特徴的な取組を分析した。



**特徴的な取組**

学校教師質問紙調査から比較

- 【小】伸び率上位 30 校程度と下位 30 校程度を比較
- 【中】伸び率上位 15 校程度と下位 15 校程度を比較

**【差がみられた特徴的な取組】**

※A、B群の肯定的な回答の割合（平均）がC、D群の回答の割合（平均）より大きかったものを一部掲載。  
 ※肯定的回答（そう思う+どちらかといえばそう思う）  
 ※学校規模（小学校は 61 人以上、中学校は 31 人以上）を基に算出

**【小学校】**

- あなたは、昨年度の「熊本県学力・学習状況調査」の結果を、どの程度、**指導方法の工夫改善等に活用**していますか。
- あなたは、昨年度の「熊本県学力・学習状況調査」の結果の分析で明らかになった課題に対して、校内研修等で協議された**方策の共通理解**のもと、取組にあたっていますか。
- あなたの授業では、児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて**補充的な学習や発展的な学習**を行うなど、**個に応じた指導**の充実が図られていますか。
- 授業等に関わる児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、**自分で考え、自分から取り組む**ことができていると思いますか。

**【中学校】**

- あなたは、教科の指導として、**家庭学習の課題（宿題）**を与えていますか。
- あなたは、授業等に関わる児童生徒に対して、学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け**評価する（褒めるなど）取組**をどの程度行いましたか。
- 授業等に関わる児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、**自分で考え、自分から取り組む**ことができていると思いますか。
- あなたは、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を**計画的に取り入れて**いますか。

## 2 本県の学力向上に向けた方向性

目指す子供の姿「熊本の学び」の理念

熊本のすべての子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指します。

※「熊本の学び」の理念の実現に向け、令和元年度に策定した義務教育段階における学力向上に関する計画「熊本の学び推進プラン」を基に進めていきます。

## 3 現状の改善に向けた方策

(1) 学力向上に関する計画「熊本の学び推進プラン」

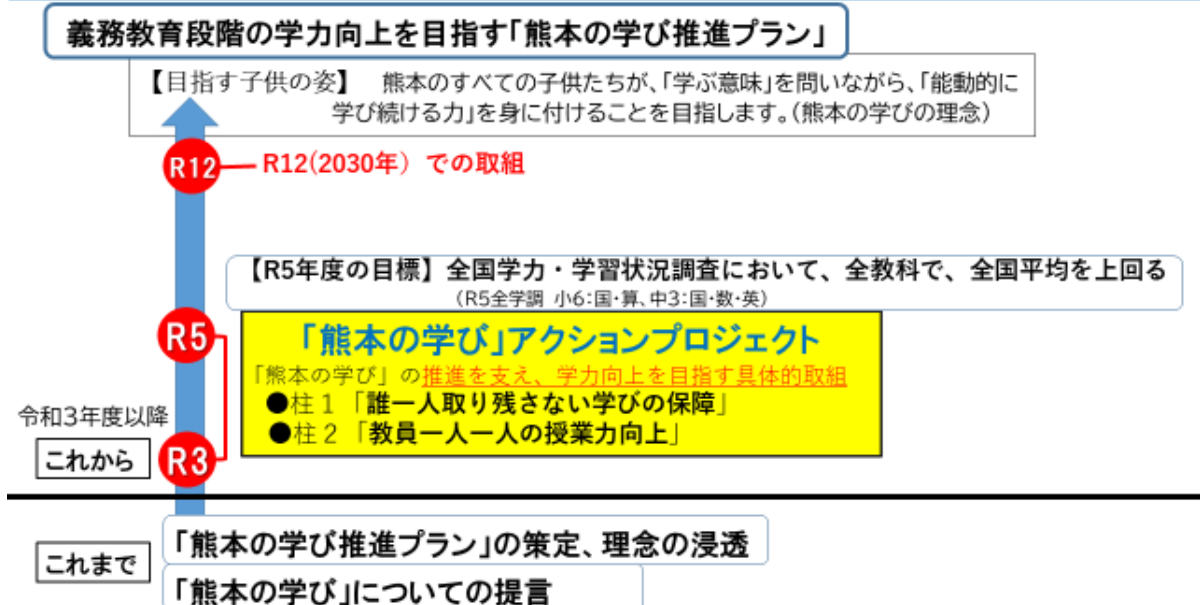
本プランは、平成31年4月に「熊本の学び」総合構想会議からの提言を受け、県教育委員会が策定した義務教育段階における学力向上に関する計画です。基本方針を以下の4つに整理しています。

- 1 教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進
- 2 子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進
- 3 子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立
- 4 家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進

(2) 「熊本の学び」の推進を支え、学力向上を目指す「熊本の学び」アクションプロジェクト

令和3年度から令和5年度の3年間、「熊本の学び」の推進を支え、学力向上を目指す具体的取組として、「熊本の学び」アクションプロジェクトに取り組みます。

### 「熊本の学び推進プラン」と「熊本の学び」アクションプロジェクトの関係図



(3) 「熊本の学び」アクションプロジェクトで大事にする2つの柱

「熊本の学び」アクションプロジェクトでは、1の現状を踏まえ、「誰一人取り残さない学びの保障」と「教員一人一人の授業力向上」を2つの柱として取り組みます。各柱の具体的な取組については以下のとおりです。

先生達が授業を中心に取り組むこと

【柱1】誰一人取り残さない学びの保障

個に応じた指導・習熟度別指導の拡充

授業等で週に1回程度は、個に応じた指導や習熟度別指導を行い、分かる喜びを実感させながら、基礎力の定着・応用力の発展を図る

読み・書き・計算の習得の徹底

特に小学校低・中学年段階における漢字の読み書き・基礎的な計算について、家庭の協力も得ながら、身に付くまで粘り強く指導する

定着確認の徹底

単元ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているかどうか確認し、身に付くまで粘り強く指導する

読解力向上の取組実践

文脈を理解しながら「読む」、文脈に基づいて自分の考えを「書く」などの取組を各教科において実践する

学校と行政が連携して取り組むこと

【柱2】教員一人一人の授業力向上

学校運営に関する助言の強化

(教育事務所、教育センター、市町村教委)  
特に学力向上に関して、学校管理職が果たす役割や困りごとについて、解決方法等を共に考えるなど、管理職をフォローする

授業観察の習慣化 (学校管理職)

日々の授業見回りはもとより、学校規模に応じて、例えば、個々の教員の授業について、週に1コマ程度を目安に観察し、それに基づく指導助言を行う(必要に応じて、スーパーティーチャーや指導主事等の活用)

校内研修内容の重点化 (学校管理職)

学校が抱える課題のうち、特に早急な対応が必要な事案について、学校全体で問題意識を持ちながら解決を図るようするため、校内研修内容の精選・重点化を図る

構想・省察の習慣化 (教員)

児童生徒が各単元等の「ゴールの姿」に到達するように、学習を構想するとともに、授業・単元終了後は、結果を省察することを習慣化する

## 4 「熊本の学び」アクションプロジェクト〔柱1〕の具体的取組に向けて

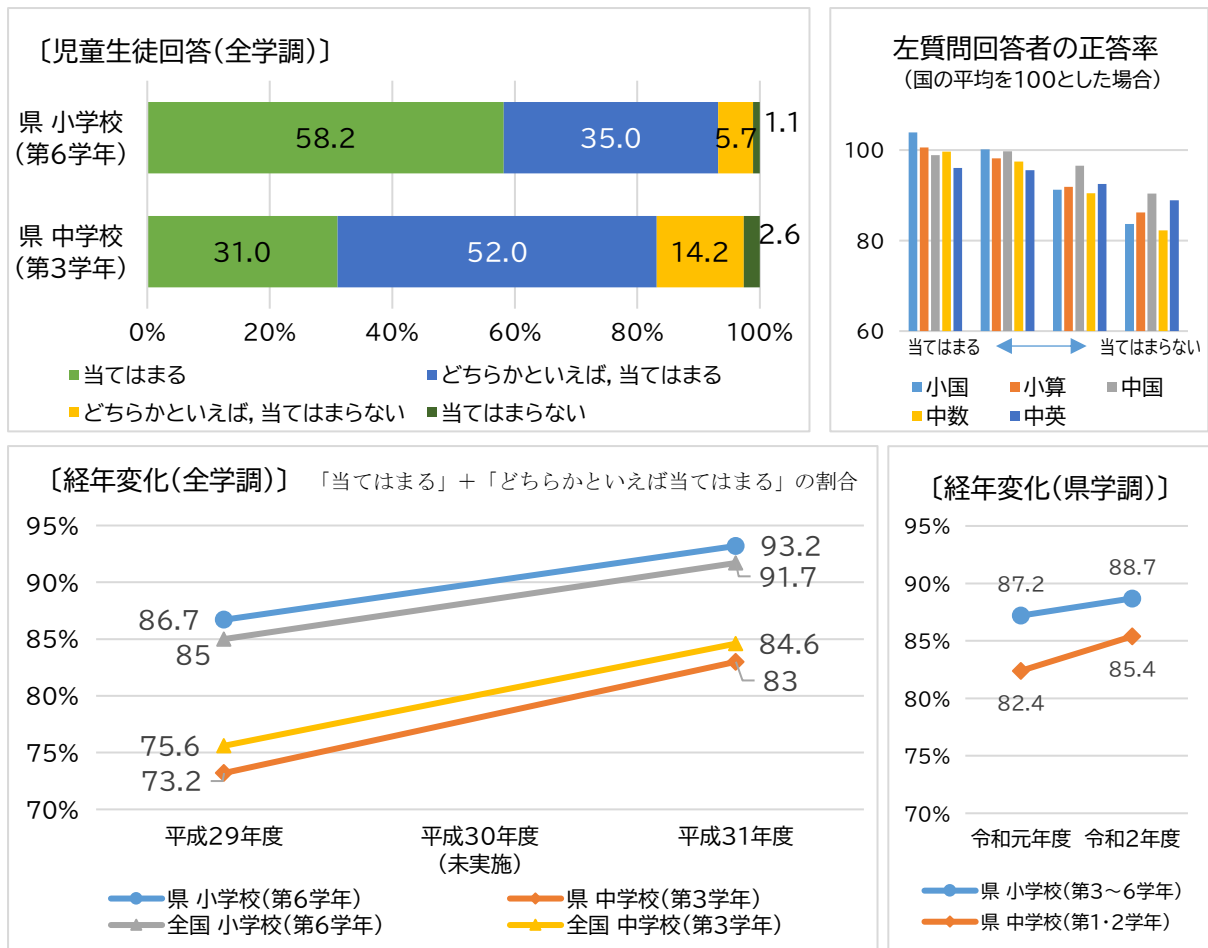
### 柱1 「誰一人取り残さない学びの保障」に関する現状と具体的取組

子供一人一人の学力を伸ばすためには、①個に応じた指導・習熟度別指導の拡充 ②読み・書き・計算の習得の徹底 ③定着確認の徹底 ④読解力向上の取組実践 に取り組む必要があります。特に、学力下位層を伸ばすためには、これらを確実に実施する必要があります。諸調査結果から見てくることを基に、各学校での取組を例示しますので、各学校が取り組むことを考えましょう。

#### (1) 児童生徒の学習状況の現状

##### 現状① 学習内容の定着について

【質問】先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。



小学校では9割以上、中学校では8割以上の児童生徒が、分かるまで教えてくれていると認識しています。学習内容の定着と正答率の相関関係を見ると、先生が、間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると感じている児童生徒ほど正答率が高い傾向にあります。

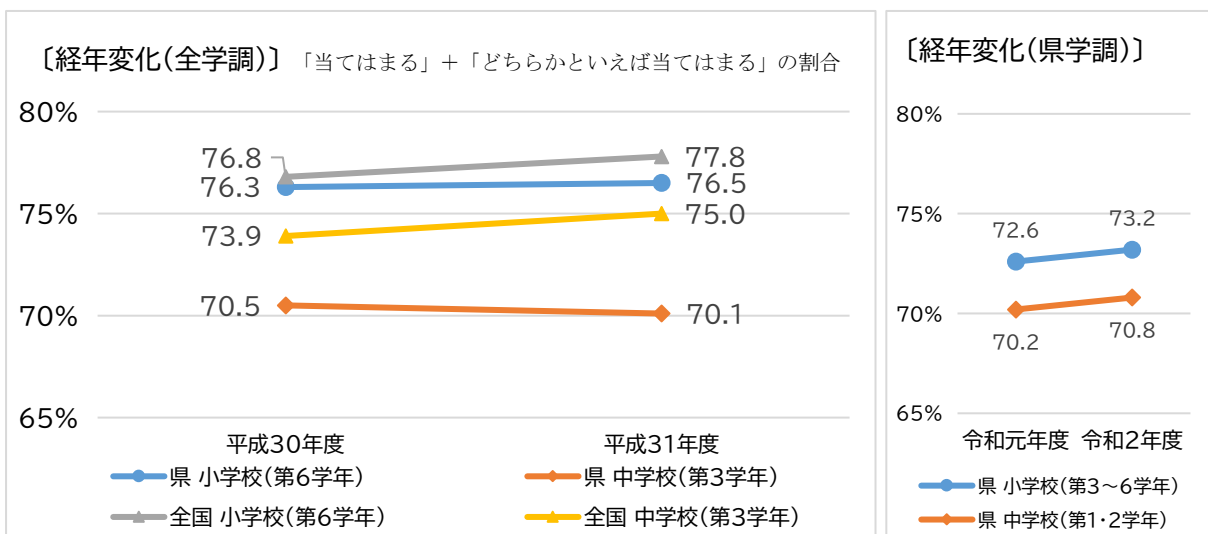
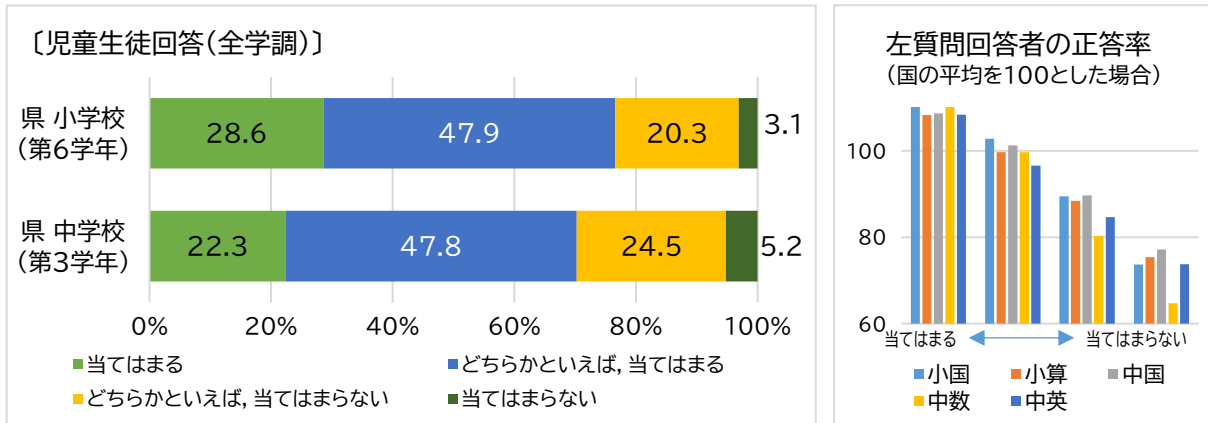
また、経年変化を見ると、全学調・県学調共に、分かるまで教えてくれているという児童生徒が年々増えていますが、全学調をみると、中学校においては全国平均より低い状況が続いています。



授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援や、日々の授業の中で習熟を図るなどの手立てが必要です。

## 現状② 授業への主体性について

【質問】5年生まで（中学校は1、2年生の時）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



小中共に7割程度の児童生徒は、主体的に授業に取り組んでいると認識しています。正答率との相関関係を見ると、主体的に授業に取り組んでいる児童生徒の学力は、小中学校ともに高くなっています。

全学調における経年変化を見ると、主体的に授業に取り組んでいる児童生徒は、小学校で約76%、中学校で約70%となっており、全国平均はゆるやかに増加しているものの、本県は停滞傾向にあります。県学調では、小中共に上昇しています。

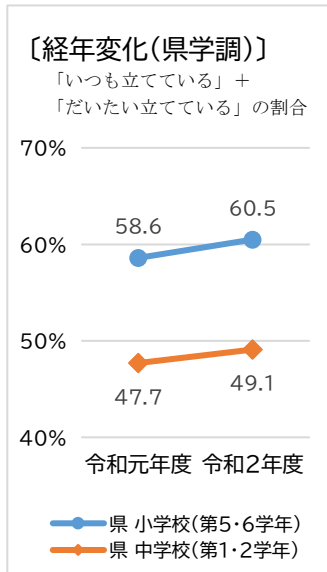
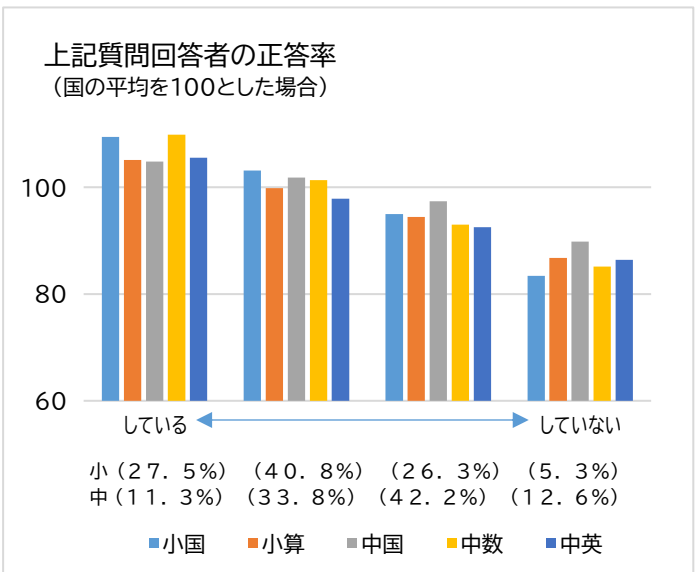
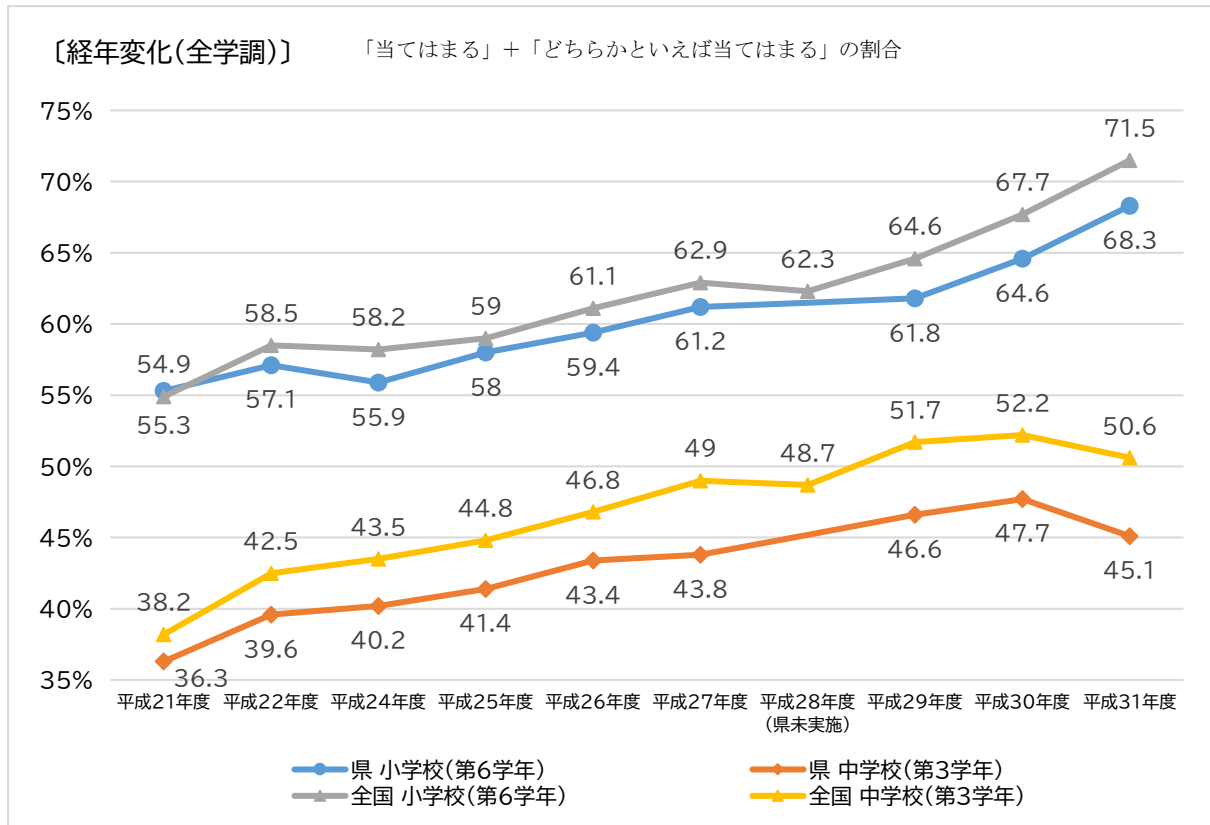


新しい学習であっても自信を持って取り組めるよう既習事項の定着を図ったり、考え方のヒントを示したりする等、授業の中で学習への意欲を高める手立てを工夫することが、学力の定着や次の学習への意欲につながります。



### 現状③ 家庭学習の状況について

【質問】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



小学校では約7割の児童が自分で計画を立てて勉強していますが、中学校では半数以下と低くなっています。正答率との相関関係を見ると、自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の学力は高い傾向にあります。経年変化を見ると、年々増加傾向にあります。全国平均を越えない状況が続いています。県学調の経年変化では、上昇傾向にあります。

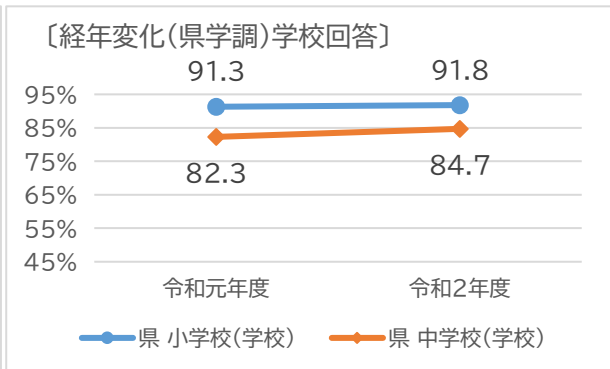
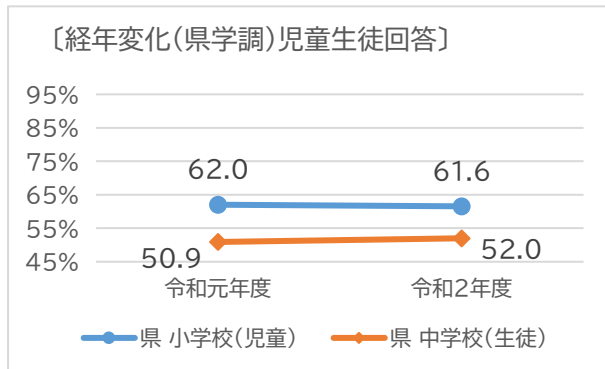
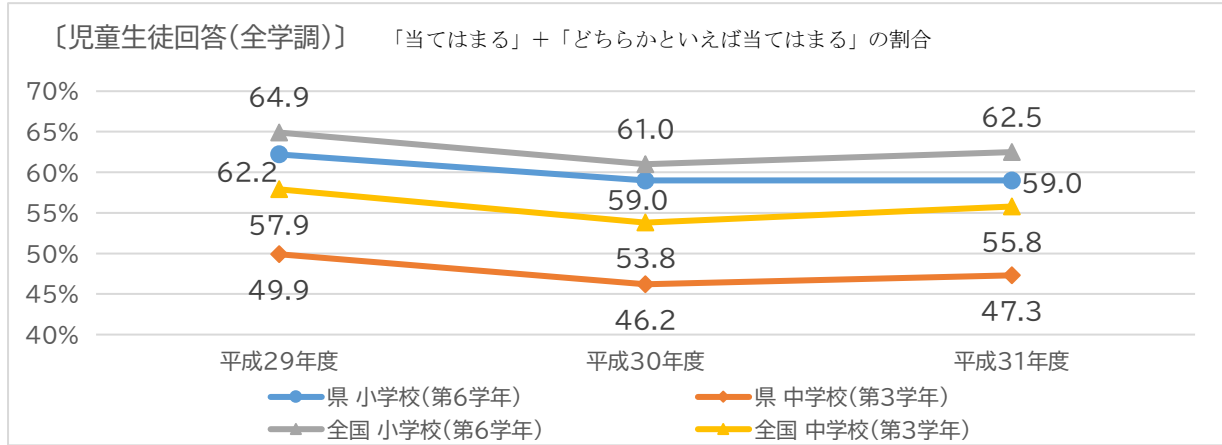


児童生徒が自分のために必要な家庭学習に取り組むことができるよう、学習の進め方を示したり、しっかりと見届けて継続のためにアドバイスをしたりするなど、家庭とも連携して、児童生徒が主体的に家庭学習に取り組むための工夫が必要です。

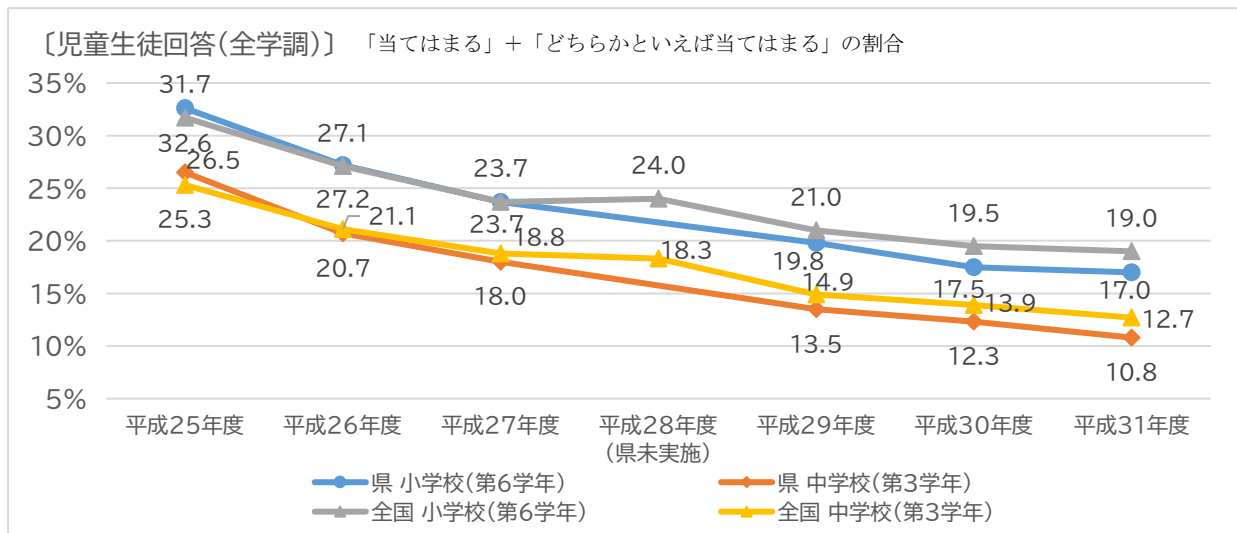
## 現状④ 読解力の状況について

【児童生徒質問】授業で、自分の考えを發表するとき、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して發表していると思いますか。

【教師質問】あなたは、授業で、文章、絵や写真、図や表、グラフなどを関連付けて読み取らせ、考えたことなどを表現させるような学習活動を行っていますか。



【質問】新聞を読んでいますか。



自分の考えを發表する際に、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫している児童生徒は、小中共に全国平均よりも低い値になっており、児童生徒と教師との認識にも差があります。また、新聞を読んでいる児童生徒の割合は、全国と同様に本県も年々低下しています。

各教科等において、文章、絵や写真、図や表、グラフを関連付けて情報を理解し、考えたことを表現する学習活動の継続した取組が必要です。



## 【現状分析による重点取組事項とのつながり】

現状①より ○ 授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援や、授業の中で習熟を図るなどの手立て等の取組が必要

⇒ **重点取組 1** 個に応じた指導・習熟度別指導の拡充

現状②より ○ 新しい学習であっても自信を持って取り組めるよう既習事項の定着を図ったり、考え方のヒント及び生活や社会とのつながりを示したりする等、授業の中で学習への意欲を高める手立てや学習の動機付けを図る手立てを工夫することで、基礎学力を定着させ、次の学習への意欲につなげる取組が必要

⇒ **重点取組 2** 読み・書き・計算の習得の徹底

⇒ **重点取組 3** 定着確認の徹底

現状③より ○ 児童生徒が自分のために必要な家庭学習に取り組むことができるよう、学習の進め方を示したり、しっかりと見届けて継続のためにアドバイスをしたりするなど、家庭とも連携して、児童生徒が主体的に家庭学習に取り組むための工夫が必要

⇒ **重点取組 2** 読み・書き・計算の習得の徹底

⇒ **重点取組 3** 定着確認の徹底

現状④より ○ 各教科等において、文章、絵や写真、図や表、グラフを関連付けて情報を理解し、考えたことを表現する学習活動の継続した取組が必要

○ 授業や行事等で自分の考えを発表させる際は、自分の考えが相手に伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する等、学校総体としての取組が必要

※ PISA2018の読解力に係る調査問題において課題とされた、テキストから情報を探し出す問題、テキストの質と信ぴょう性を評価する問題、自分の考えを他者に伝えるように根拠を示して説明する問題等の克服のための取組も必要

⇒ **重点取組 4** 読解力向上の取組実践

本県の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障するため、次の取組例を参考に、各学校・学級の実態に応じて、授業を中心とした取組を進めていきましょう。



### OECD生徒の学習到達度 2018 年調査 (PISA2018) について


OECD (経済協力開発機構) の生徒の学習到達度調査 (PISA) は、義務教育修了段階の 15 歳児を対象に、2000 年から 3 年ごとに、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの 3 分野で実施 (2018 年調査は読解力が中心分野)。平均得点は経年比較可能な設計。前回 2015 年調査からコンピュータ使用型調査に移行。日本は高校 1 年相当学年が対象で、2018 年調査は、同年 6~8 月に実施。

(2) 現状を踏まえた具体的取組

先生達が授業を中心に取り組むこと

重点取組 1 個に応じた指導・習熟度別指導の拡充

授業等で週に1回程度は、個に応じた指導や習熟度別指導を行い、分かる喜びを実感させながら、基礎力の定着・応用力の発展を図る。

教育委員会の取組	学校の取組例
<input type="checkbox"/> 「熊本の学び」に関する研修等の実施 <input type="checkbox"/> 全国及び県学力・学習状況調査の実施・分析 <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179.html</a> <input type="checkbox"/> 学校支援訪問、学力向上アドバイザー派遣事業等、学校の課題に応じた支援の実施	例えば… <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元前に確認テストを実施し、子供一人一人の知識・技能の習得状況を把握し、単元の学習に入る前に復習の時間を設ける。</li> <li>・単元等の途中で形成的評価などの評価の工夫を行い、習熟に課題がみられる場合には、個別指導や習熟度別指導、補充の時間等を設定し、分かる・できるまで関わる。</li> <li>・授業中、児童生徒の理解の状況を確認し、理解が進んでいない児童生徒にはその都度支援する。</li> </ul>
 熊本の学び推進プラン p. 26、39 等	(各学校で取り組むことを考えてみましょう) <input type="checkbox"/>



新しい単元に入る前に、前回学習したこの部分について、難しかったところを確認しましょう。

【個に応じた指導の例】


単元の後半は、じっくりコースで学習して、計算の仕方がしっかり分かるようになりたいな。

【習熟度別学習の例】



重点取組 2 読み・書き・計算の習得の徹底

特に小学校低・中学年段階における漢字の読み書き・基礎的な計算について、家庭の協力も得ながら、身に付くまで粘り強く指導する。

教育委員会の取組	学校の取組例
<input type="checkbox"/> 県学力・学習状況調査の実施・分析 <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-667.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-667.html</a> <input type="checkbox"/> 県教育広報誌「ぼとん・ぱす」や保護者向けチラシでの広報 <input type="checkbox"/> 学校支援訪問、学力向上アドバイザー等、学校の課題に応じた支援の実施 <input type="checkbox"/> 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進 <input type="checkbox"/> 地域未来塾・放課後子供教室の実施	例えば… <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や計算等について学習したことを、他の学習や生活と関連付けながら様々な場面で活用できるよう指導したり、定期的に確認したりすることで、知識・技能の定着を図る。</li> <li>・国語と算数の授業の中で5分程度、漢字の読み書きや基本的な計算練習など、基礎定着の場面を設定する。</li> <li>・家庭学習のポイントや目的について、子供・学校・保護者で共有し、家庭と連携して取り組む。</li> <li>・保護者や地域の方の協力による学習支援ボランティア等を活用し、丸付けやできなかった問題のやり直しに手厚く対応する。</li> </ul>
 熊本の学び推進プラン p. 11～25 p. 81～83、 p. 91～100 等	(各学校で取り組むことを考えてみましょう) <input type="checkbox"/>

昨日の宿題の日記でも、学習した漢字が正しく使えていたね。

【漢字習得の徹底の例】




学習支援の先生に計算の間違いを丁寧に見てもらったから、自信をもってできるようになったぞ。

【計算習得の徹底の例】



### 重点取組 3 定着確認の徹底

単元ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているかどうか確認し、身に付くまで粘り強く指導する。

教育委員会の取組	学校の取組例
<p>□「熊本の学び推進プラン」に関する取組事例の提供  <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/89201.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/89201.html</a></p> <p>□学習評価のポイント及び学習構想事例の提供  <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-669.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-669.html</a></p> <p>□県学力・学習状況調査の結果等の提供(教科指導のポイントなど)  <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-667.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-667.html</a></p> <p> 熊本の学び推進プラン p. 81～83、p. 91～100 等</p>	<p>例えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県学力・学習状況調査の結果等から、つまづいた問題を再度解いたり、類似問題・関連問題に挑戦したりする機会を設け、定着を図る。</li> <li>・県学力・学習状況調査フォローアッププリントの活用を図る。</li> <li>・単元のまとめの学習の状況を把握し、次の単元の導入で振り返る時間を設定したり家庭学習等で取り組ませたりするなど、「分かる」「できる」まで指導する。</li> <li>・定期テスト前の〇日間は「復習週間」とし、計画表を作成させる中で目標を個別に設定させ、朝学習や家庭学習で自主的に復習に取り組めるよう工夫する。</li> </ul> <p>(各学校で取り組むことを考えてみましょう)</p> <p><input type="checkbox"/></p>



この問題は、この前間違えていた問題と似ているから、できるようになったか確かめるために解いてみよう。

【教師による定着確認の例】



こんな場面で to～ が使えるな。完璧に身に付くように、色々な場面で使って復習しよう。

【生徒自身による定着確認の例】



### 重点取組 4 読解力向上の取組実践

文脈を理解しながら「読む」、文脈に基づいて自分の考えを「書く」などの取組を各教科において実践する。

教育委員会の取組	学校の取組例
<p>□「熊本の学び推進プラン」に関する取組事例の提供  <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/89201.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/89201.html</a></p> <p>□全国及び県学力・学習状況調査問題や活用の仕方について資料提供</p> <p>□国語指導の手引きの活用  <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/52304.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/52304.html</a></p> <p> 熊本の学び推進プラン p. 36～41 p. 55～62 等</p> <p> 文章だけではなく、図や表を使った説明で、納得してもらえるようにしよう。</p> <p>【学習活動の工夫の例】</p>	<p>例えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図や表を使って適切に手順を説明したり、箇条書きでまとめたり、コメントしたりする学習活動を取り入れる。</li> <li>・授業のまとめで、その授業の学習を振り返って自分の考えを簡潔に書かせるよう継続的に指導する。</li> <li>・総合的な学習の時間の探究的な学習過程で、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」に繰り返し取り組む。</li> <li>・日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に活用する。(授業での利用、一斉読書等)</li> </ul> <p>(各学校で取り組むことを考えてみましょう)</p> <p><input type="checkbox"/></p>

## 4 「熊本の学び」アクションプロジェクト〔柱2〕の具体的取組に向けて

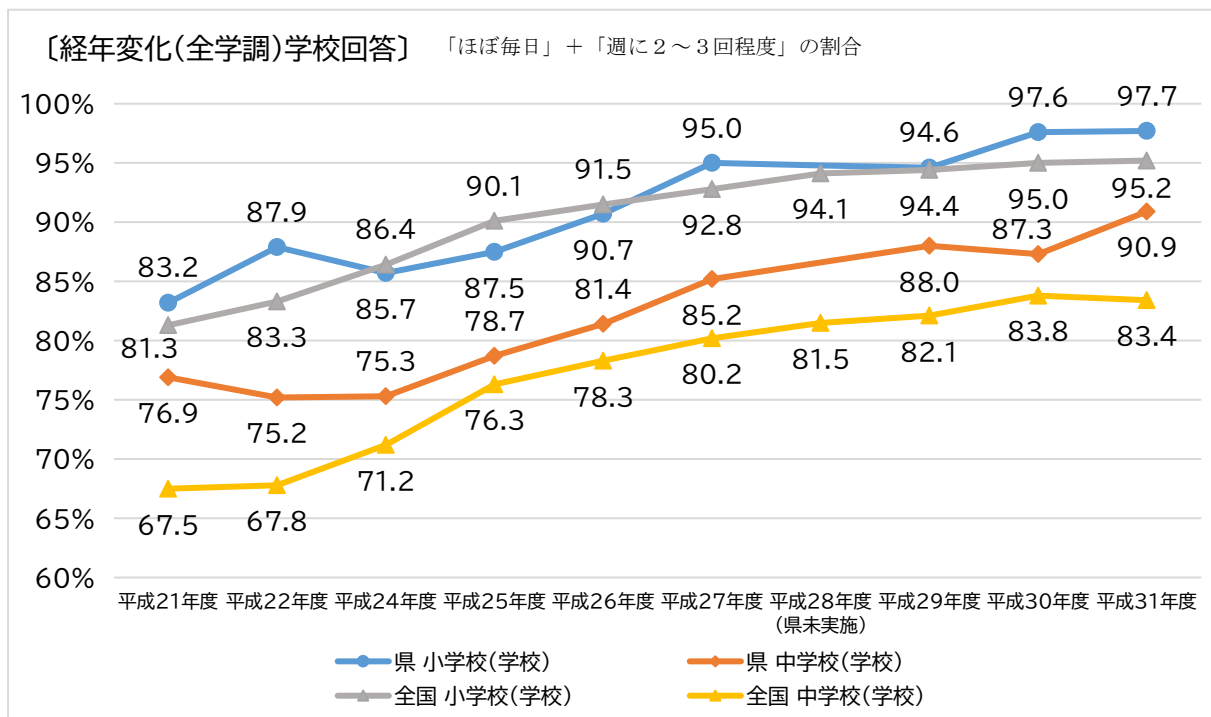
### 柱2 「教員一人一人の授業力向上」に関する現状と具体的取組

教員一人一人の授業力を向上させるためには、①学校運営に関する助言の強化 ②授業観察の習慣化 ③校内研修内容の重点化 ④構想・省察の習慣化 に取り組むことが必要です。諸調査結果から見てくることを基に、各学校での取組を例示しますので、各学校で取り組むことを考えましょう。

#### (1) 学校及び教員の授業や学力向上の取組の現状

##### 現状① 授業観察の習慣化について

【質問】 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。

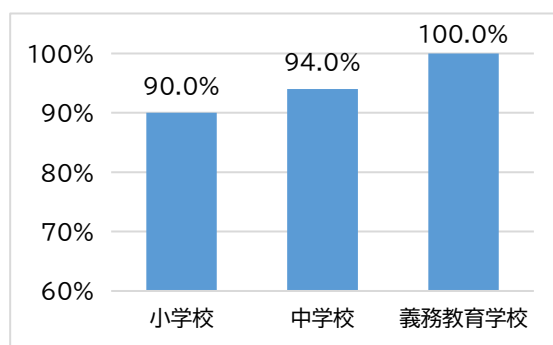


校長の授業観察の実施については年々増加傾向にあり、全国平均を越えて高い数値となっています。授業観察が多くの学校で習慣化されている一方で、学力向上には十分に結び付いていない現状があります。



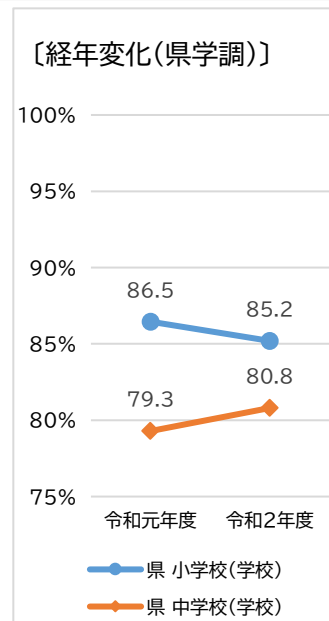
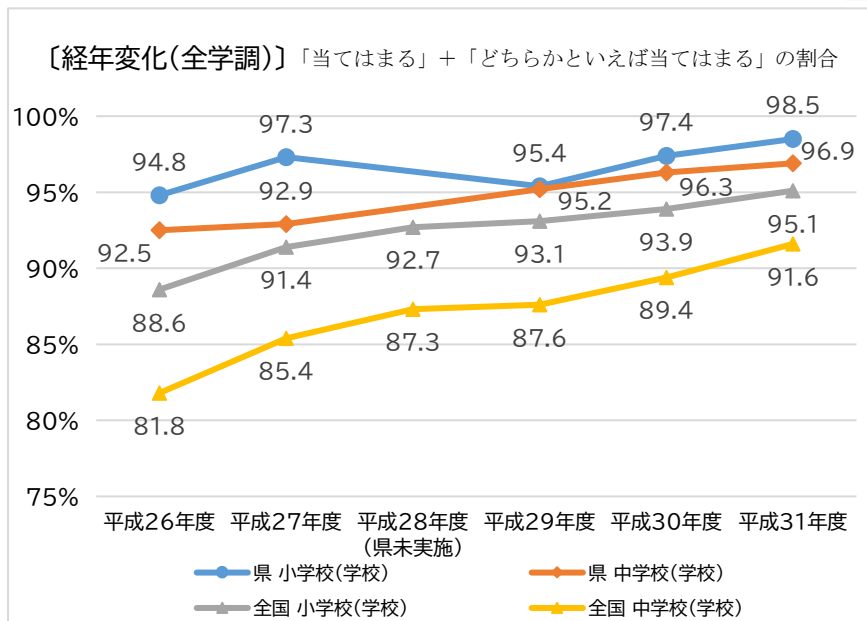
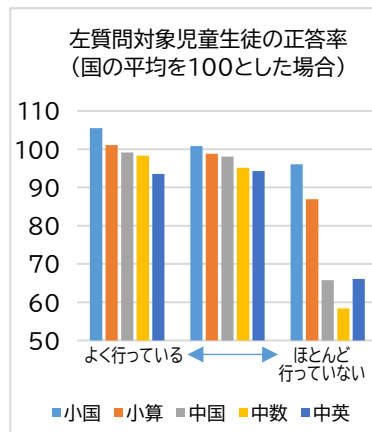
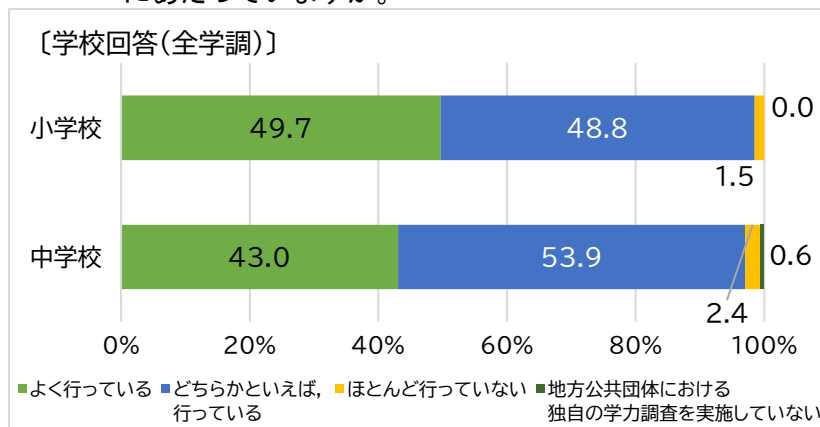
学力向上につながる取組としていくために、日頃の授業観察における視点を明確にして、改善につながる指導助言を行うなどの工夫が必要です。

【参考】 学力向上に向けて、外部機関（教育事務所、県立教育センター）を活用している学校数  
※「令和2年度教育指導の反省」より



## 現状② 学力向上検証改善サイクルについて

【質問】(全学調) 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。  
 (県学調) 昨年度の「県学力調査」や本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果の分析で明らかになった課題に対して、校内研修等で協議された方策の共通理解のもと、取組にあたっていますか。



学力向上検証改善サイクル実施に基づいた取組については、小中学校ともに全国平均を上回っており、ほとんどの小中学校で実施されています。取組を「ほとんど行っていない」と回答した中学校は学力が低下していることから、サイクルに基づいた取組を実施していくことは、学力向上に寄与していることが分かります。

県学調の経年変化を見ると、サイクルに基づいた取組を実施している学校は、小学校で減少し、中学校で増加しています。

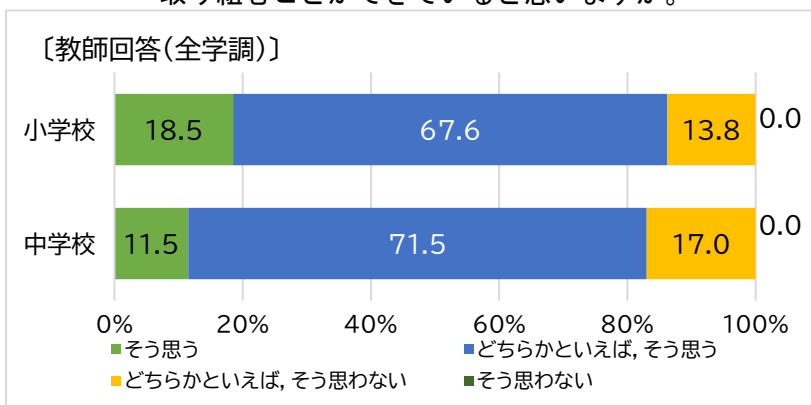


より学力向上につながる取組としていくために、全職員が参加して、自校の実態把握と分析に基づく校内研修テーマの設定や、育成を目指す資質・能力の検討などを行い、具体的な課題改善を学校組織一体となって図っていくことが大切です。

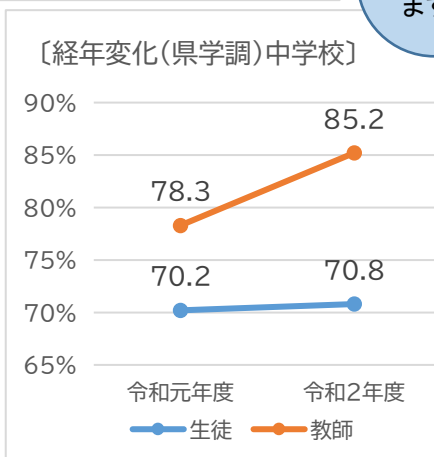
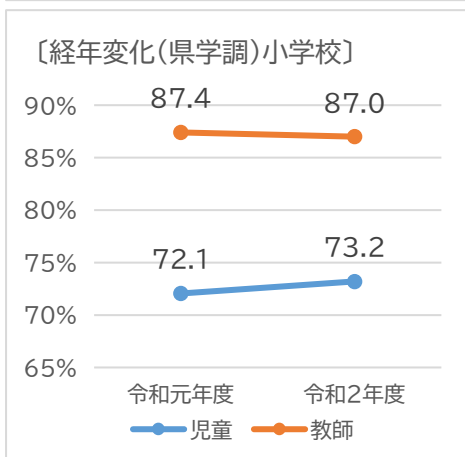
学校総体でよりよい授業(単元)デザインをするためのPDCAサイクルを確立することによって、子供たちが自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学び続ける「熊本の学び」を支えることができます。

### 現状③ 日々の授業の充実について（児童生徒・教師）

【教師質問】授業等に関わる児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



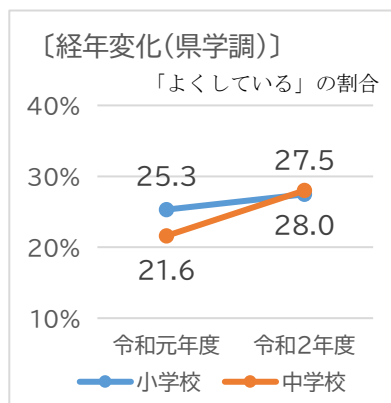
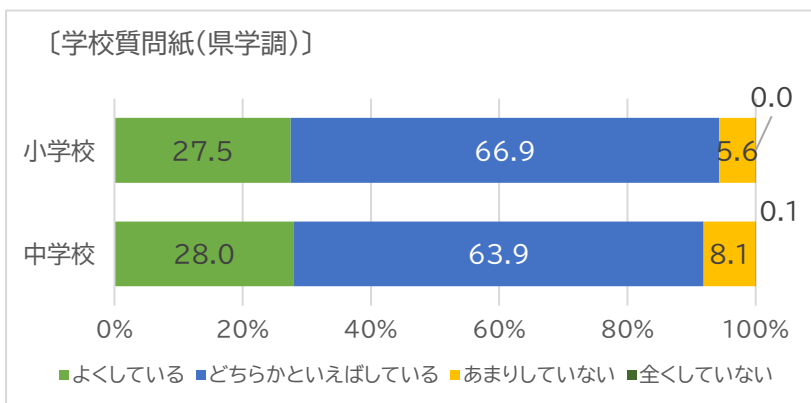
主体的に授業に取り組んでいると教師が回答した割合を、p7の児童生徒の回答と比較してみると、小学校では児童76.5%に対し、教師86.1%で、中学校では生徒70.1%に対し、教師83.0%となっており、児童生徒の認識と教師の捉えにずれがあることが分かります。教師側の捉えより1割程度低い値が、児童生徒の認識となっています。



県学調の経年変化をしてみると、特に中学校では、教師の捉えの伸びほど生徒自身の認識は高まっていないことが分かります。

「当てはまる(そう思う)」+「どちらかといえば当てはまる(そう思う)」の割合

【教師質問】あなたは、授業に当たって、単元終了時の児童生徒の姿を具体的にイメージして指導を行っていますか。



単元終了時の児童生徒の姿を具体的にイメージしている教員は、9割を超えていますが、「よくしている」と回答した教員は、小学校で27.5%、中学校で28.0%と3割弱となっています。各単元において、児童生徒の姿を具体的にイメージする必要があります。

「熊本の学び」では、単元の最後の学習を終えたときの子供の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)を具体的にイメージし、その実現に向けて単元のまとまりで授業を構想することを大切にしています。児童生徒の意欲を喚起し、持続するような授業を構想できるよう、日々の授業について、工夫改善を続けていくことが大切です。



## 【現状分析による重点取組事項とのつながり】

現状①より ○ 日頃の授業観察における視点を明確にし、改善につながる指導助言をするなどの取組が必要

⇒ **重点取組 6** 授業観察の習慣化（学校管理職）

○ 特に学力向上に関して、学校管理職が果たす役割や困りごとについて、解決方法等を共に考えるなど、管理職をフォローする取組が必要

⇒ **重点取組 5** 学校運営に関する助言の強化

（教育事務所、教育センター、市町村教育委員会）

現状②より ○ 実態把握と分析に基づく校内研修テーマの設定や、育成を目指す資質・能力の検討などの具体的な課題改善のための取組が大切

⇒ **重点取組 7** 校内研修内容の重点化（学校管理職）

現状③より ○ 日々の授業における、児童生徒の実態に応じた工夫改善の取組が大切

⇒ **重点取組 8** 構想・省察の習慣化（教員）

本県の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障するため、次の取組例を参考に、学校総体としてより効果的な取組となるよう、子供を中心に、学校と行政とが連携して、それぞれが役割を果たしながら進めていきましょう。



### 「省察」について

初任者の教員について、「指導教員や先輩教員からの指導や助言を受けながら学校で日々実践し、省察・改善を繰り返す中で、教員として成長していくものである。」とあり、教員の資質向上に必要なものとして示されている。

※これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（中教審答申）（H27.12）より

### 授業実践における「省察」とは…

「単なる反省でなく、授業実践の変化を起こすことを意識した振り返り。自己課題を明確にし、その解決のための具体策を講じてはじめて授業改善が可能となる。」

※島根県教育委員会ホームページより

[https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/kikan/matsue\\_ec/chousa\\_kenkyu/h21-h25kenkyuseika/H25\\_tyousa\\_kenkyuu.data/H25\\_syousatu\\_reaf.pdf?site=sp](https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/kikan/matsue_ec/chousa_kenkyu/h21-h25kenkyuseika/H25_tyousa_kenkyuu.data/H25_syousatu_reaf.pdf?site=sp)

(2) 現状を踏まえた具体的取組

学校と行政が連携して取り組むこと

重点取組 5 学校運営に関する助言の強化

(教育事務所、教育センター、市町村教育委員会)

特に学力向上に関して、学校管理職が果たす役割や困りごとについて、解決方法等を共に考えるなど、管理職をフォローする。

教育委員会の取組	学校の取組例
<input type="checkbox"/> 学校支援訪問の実施 <input type="checkbox"/> 学力向上アドバイザー及び学級経営等アドバイザーの派遣 ※ 学校支援訪問及び各アドバイザー派遣について、別途通知を参照のこと。 <input type="checkbox"/> 学校訪問、ヒアリング等の実施 <input type="checkbox"/> スクールサポートの実施 <a href="https://www.higo.ed.jp/center/kensyuu/support">https://www.higo.ed.jp/center/kensyuu/support</a> <input type="checkbox"/> 校長会議等での周知	

重点取組 6 授業観察の習慣化 (学校管理職)

日々の授業見回りはもとより、学校規模に応じて、例えば、個々の教員の授業について、週に1コマ程度を目安に観察し、それに基づく指導助言を行う。

(必要に応じて、スーパーティーチャーや指導主事等の活用)

教育委員会の取組	学校の取組例
<input type="checkbox"/> 「熊本の学び推進プラン」を基に、授業の指導・助言用の資料の提供 <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-665.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-665.html</a> <input type="checkbox"/> 管理職研修等の充実 <input type="checkbox"/> 学校訪問時の指導助言	例えば… <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業観察の視点を全職員で共有し、各教員の授業について、学校の実態に合わせて定期的に観察・指導助言を実施する。</li> <li>・ 4月当初は学習規律を重点的に見る、といった実態に応じた視点を計画的に明示し、可能な限りその日のうちに該当教員に授業の良さや課題を伝え、授業改善につながる具体的なアドバイスを行う。</li> <li>・ 自校の子供たちにどのような力をつけたいか、全教職員で共有し、授業との関わりを意識させたり、それぞれの取組の関連事項を共有したりすることで、授業観察への理解を促し、全教職員が協働して授業改善に向かう風土を醸成する。</li> </ul> <p>(各学校で取り組むことを考えてみましょう)</p> <input type="checkbox"/>

**重点取組 7** 校内研修内容の重点化 (学校管理職)

学校が抱える課題のうち、特に早急な対応が必要な事案について、学校全体で問題意識を持ちながら解決を図るようになるため、校内研修内容の精選・重点化を図る。

教育委員会の取組	学校の取組例
<p><input type="checkbox"/> 「熊本の学び」に関する研修等の実施</p> <p><input type="checkbox"/> スクールサポートの実施 <a href="https://www.higo.ed.jp/center/kensyuu/support">https://www.higo.ed.jp/center/kensyuu/support</a></p> <p><input type="checkbox"/> 学校支援訪問の実施</p>	<p>例えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員で実態把握と分析を行い、育成を目指す資質・能力を校内研修のテーマとして設定する。</li> <li>・校内研修において、カリキュラム・マネジメントの視点から、目指す子供の姿を資質・能力として整理し、各教科の特質に応じて育成する学習内容や学習活動を重点的に位置付けるなど、学校の教育目標と日々の授業がつながるよう検討する。</li> <li>・共通の視点をもって互いの授業を参観する期間を設定する。</li> <li>・児童生徒及び教職員への定期的な評価を実施する。</li> </ul> <p>(各学校で取り組むことを考えてみましょう)</p> <p><input type="checkbox"/></p>



熊本の学び推進プラン p. 78 等

**重点取組 8** 構想・省察の習慣化 (教員)

児童生徒が各単元等の「ゴールの姿」に到達するように、学習を構想するとともに、授業・単元終了後は、結果を省察することを習慣化する。

教育委員会の取組	学校の取組例
<p><input type="checkbox"/> 「熊本の学び」に関する研修等の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 「熊本の学び推進プラン」に関する取組事例の提供 <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/89201.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/89201.html</a></p> <p><input type="checkbox"/> 「熊本の学び」授業実践の7つのチェックリスト <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-665.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-665.html</a></p> <p><input type="checkbox"/> 学校支援訪問の実施、学力向上アドバイザーの派遣</p> <p><input type="checkbox"/> 学習評価のポイント及び学習構想事例の提供 <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-669.html">https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/list179-669.html</a></p>	<p>例えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「熊本の学び推進プラン」を全教員で確認し、プランの趣旨の理解と授業改善に向けた取組を実施する。</li> <li>・各単元のゴールの姿を設定し、児童生徒と授業の中で共有する。</li> <li>・学習構想案の「大切にしていきたい3つの項目」を意識しながら、単元終了時の子供の姿に向けて日々の授業を実施する。</li> <li>・構想(教材研究)→授業→省察(評価・改善)を一体的に取り組めるよう、構想と省察について記録を取る。</li> <li>・評価については、教科部会等で適宜内容を検討する。</li> </ul> <p>(各学校で取り組むことを考えてみましょう)</p> <p><input type="checkbox"/></p>



熊本の学び推進プラン p. 26~74 等



推進プランを踏まえて、本校の授業改善のための共通実践事項を決めましょう。

【推進プランを踏まえた授業改善の例】

今日の授業の振り返りでは、自分の想定と児童の考えにずれがあったな。次の学習過程を考え直そう。

【授業の省察の例】

